

健康寿命延伸を見据えた見守り

在宅高齢者へ 見守り機器+電話サービス



ソルクシーズ（東京都港区、長尾章社長）は、山形県川西町で「地域での健康寿命延伸みまもり事業」に取り組んでいる。同社の見守り支援システム「いマイルモS」と、実証事業に共同で取り組むころみ（東京都渋谷区、神山晃男社長）が提供する会話型見守りサービス「つながりプラス」を組み合わせ、安否確認のみならず健康寿命の延伸まで見据えた新しい見守りを目指す。



「見守りを健康寿命延伸に繋げたい」と話す六角リーダー

実証事業は川西町在住の高齢者18人を対象にスタートした。いマイルモは、温度・湿度・照度や動体検知などの複数のセンサーを兼ね備えており、プライバシーに配慮しつつも詳細な見守りを行うことができる。さらに高齢者に担当コミュニケーションが定期的に電

話をし、会話内容を家族など

今回の両社のバックアップを受けながら、山形県内の大學生がセンサー状況の確認と週1回の電話での見守りを担当した。高齢者からは、友達と話しているようで楽しいといった声もあがっているとい

に向けたレポート化する「つながりプラス」と組み合わせることで、より的確な生活状況の把握に結びつける。同事業は、これらで得た情報を地域包括支援セ

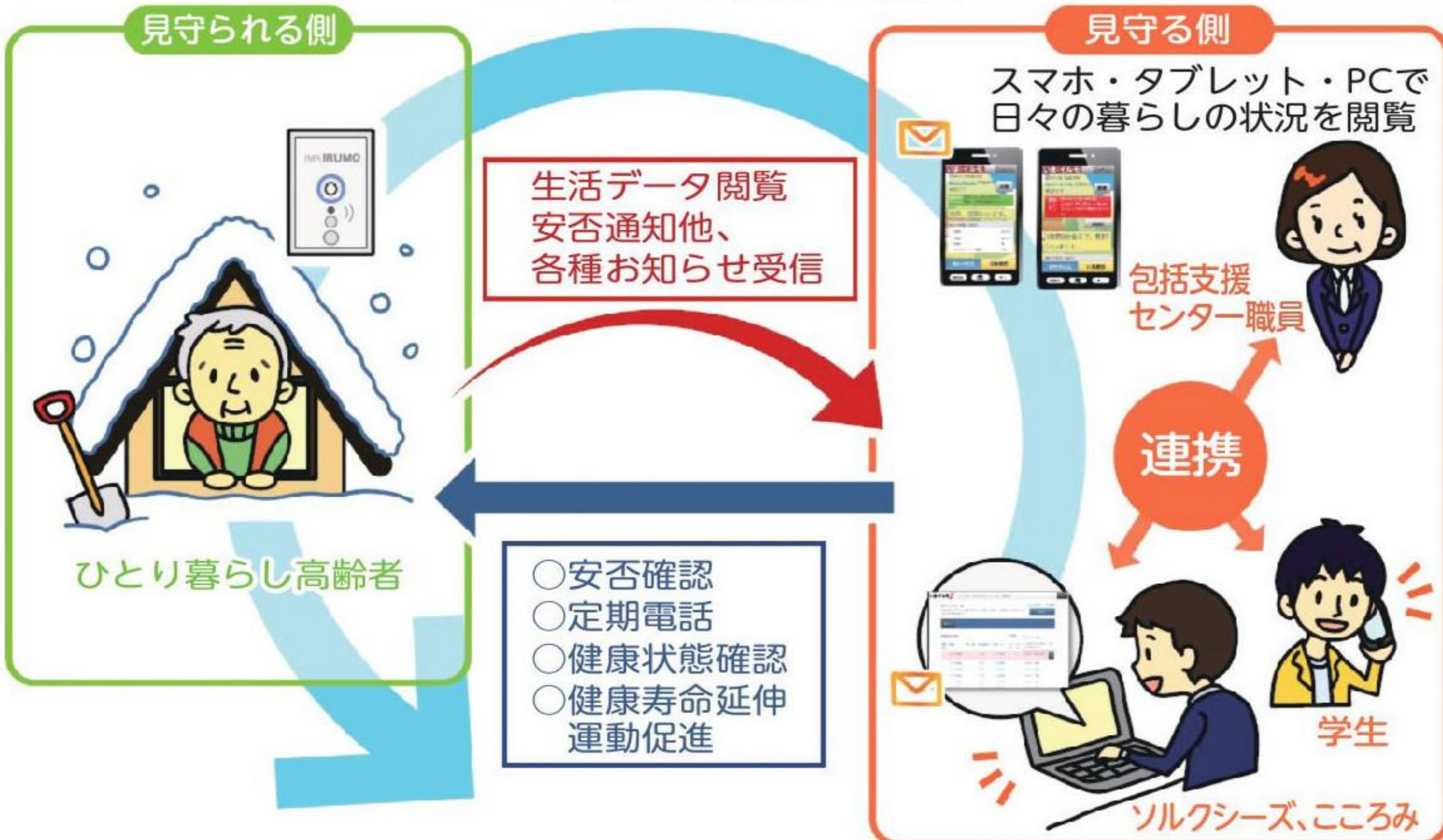
う。いマイルモ推進グループの六角卓也リーダーは「企業や行政だけでなく、地域の人と連携できるネットワークを作る必要がある」と強調。高齢者との交流を通し、コミュニケーション力などのスキルアップにも繋げてほしいと期待を寄せ、「学生も、やりがいを感じてくれているのではないか」と話す。

川西町は雪深く、事業が行われた1月下旬からの約1カ月間は、高齢者の外出だけでなく、地域包括支援センター等が行う訪問での見守りも難しい。しかし同事業によって情報を把握することで、生活状況を踏まえた上での訪問など、より効率の良い動きへ繋げることができたという。

情報把握の次の段階としては、データを蓄積していく中、運動等の必要があると思われる場合に、町の実施するイベ

ントへの参加を提案するなど、高齢者の活動促進を目指す。より活発な生活をしてもらうことで、健康寿命を延伸させることが第一のねらいだ。同行が可能な場合は、担当コミュニケーションが一緒に参加することなども検討しているという。

川西町での事業の概要



だけでなく、普段からより良い方向へ導いていくことこそ「あるべき姿」と語った。

ただでなく、普段からより良い方向へ導いていくことこそ「あるべき姿」と語った。